

「家族が喜ぶラーメン屋」
このコンセプトに込められた
社長・笠井政志の想い。



幼い頃、突然目の前から 母親が姿を消した。



幼い頃、両親が離婚した。
私と弟は父親と母親のどちらでもなく、
祖父母と暮らすことになった。
途中、何度も何度も一緒に暮らそうと
迎えにくる母親に連れられ
祖父母の家を出るが、
やはり幸せな生活が続くことはなく、
祖父母の家へ戻るとい生活繰り返していた。
どんな暗い顔で帰っても、
祖父母は暖かい笑顔で迎えてくれた。

当時の記憶はかなり薄らいではいるが、
戦争で足を悪くしている祖父が
野球のバットを買いに連れて行ってくれたことは
よく覚えている。
今思えば、寂しい思いを
させたくなかったのだろう。
そんな祖父母の存在こそが私の救いだった。
育ててくれた祖父母に恩返しをしたい。
そう強く思うようになっていた。





一日も早く祖父母に 恩返しがしたかった。

高校卒業後、有名タイヤメーカーへ就職するが、
1年半で辞めてしまった。

決して会社が悪かったわけではない。

雇われる働き方に違和感があったからだ。

同時に、このままでは祖父母に

恩返しができないという焦りもあった。

両親とは違って歳もいっている。

何十年と私の成功を

待ってくれるわけではないと

分かっていたからだ。



そんな時、縁があって当時神戸では
知名度があった牛井チェーン店に入社。
これまで見てきた会社とは違い、
チームワークを大事にした温かい社風に
私は一目惚れをした。
同僚ではなく仲間。
仲間というより家族のような存在だった。
現在の「まこと屋イズム」は
この時の経験からできたものだ。

まこと屋を創業。 スタッフは私の家族だ。



まこと屋を創業して17年になる。
今では国内に21店舗、台湾に3店舗を展開できるまでの大きな組織になった。
家族という存在に憧れがあった
子供時代の経験から、
ラーメンを家族団欒のキッカケにして欲しいと、
郊外のロードサイドを中心に店舗展開をしている。
だからこそ、店作りに一切妥協はしない。
生き方に厳しく言うことも多い。
それは全てスタッフを家族と思っているからだ。

優しくすることは簡単だ。
いい給料を稼いで欲しいからこそ、
私は厳しく成長を求め続けるのだ。
その証拠に店長になれば
月50万円の月給を保証している。
私と人生を共にすることを選んでくれた
スタッフを幸せにしたいと思う。





ここで人生を変える
勝負をしてみないか。

弟と2人で寂しい思いをしていたあの頃、
こんな大家族で仕事にアツくなれるなんて
思ってもいなかった。
仲間が支えてくれなければ、
夢はどこかで途絶えていたかもしれない。
まこと屋には、
ラーメンが好きで入ってきた人もいれば、
自分自身を変えたかったという人、
稼がないといけない理由がある人。
いろんな人がいる。
どんな境遇であれ、
熱い人間であることには間違いはない。



今回もそんな熱い人間に出会いたい。
家族が笑顔になるラーメンを作ろう。
私たちと関わる全ての人を笑顔にしよう。
人生を変えよう。家族になろう。



安心 安全 美味しい!

ご家族が笑顔で食べられる

本物のラーメン屋

まこと屋のキャッチフレーズは「家族が喜ぶラーメン屋」
「ゆげの向こうに笑顔が見える」まこと屋の店舗のほとんどは郊外やショッピングセンターなど家族が来店しやすい立地にあります。私たちは、家族みんなが本物のラーメンを笑顔で食べれるお店を目指しています。

まこと屋は、ラーメンに限らず商品はできるかぎり手作りにこだわります。スープも店舗で圧力寸胴で仕込み、チャーシューも店舗で仕込みます。もちろん食材は、ほぼ国産のものにこだわっています。もしかしたら、そこまでしなくてもと思うところもこだわってやります。「目に見えないところまで大切にする」これがまこと屋イズムです。



人生は自分次第で
変えることができる。

株式会社マコトフードサービス
代表取締役 笠井 政志

